
殴られても離れられなかった

天野 珊瑚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殴られても離れられなかった

【Nコード】

N9579H

【作者名】

天野 珊瑚

【あらすじ】

ドメスティックバイオレンス

DV彼氏の暴力や暴言に耐えながら、同棲生活を過ごす女の話。実話を元にしていきます。女性に対する誹謗中傷はおやめください。

第1話 暴力（前書き）

これは恋愛小説です。残酷な描写はありません。

第1話 暴力

「お前は俺のことばかりにしてんのか!!」
凄まじい罵声と手のひらが飛んでくる。

バシツツ!!

「いつ……!!」

痛いと言っことさえ、声にならず、わたしは意識が飛ぶ。

「もう出てけや!! うつとつしいな!!」

わたしは微かに戻ってきた意識と感覚を頼りに起き上がる。
こんな風に殴られるのは3回目……

まただ…また始まった……

1度目は2年前。

何が起きたのかわからなかった。家事をしてる、してないなどとケ
ンカをしている時に、

「ウガーツ!!」

彼は今まで、見たこともない形相になり、暴れ出した。

そして、わたしの洋服を掴み、2階のベランダから撒き散らした。

「ちょっと!! 何するの!!」

慌てて近寄ったわたしを見て、睨みつける彼。

「うるさい！……指図するな！……！」
充血した赤い目をつり上げ、両手でグッと首を絞められた。

「うえっ……」
わたしは苦しくて、息が出来なくなつて、瞬時に殺される！……と思つた。

物凄い剣幕の彼。

手を払おうとしても、ガリガリのわたしでは太刀打ち出来るはずもない。

力が足りない……声も出ない……

もう終わりだ……誰か助けて……助けて……

祈るしかなかった。

でも彼は、涙をぼろぼろ流すわたしを見て
「ヤバイ」と思ったのか、手の力をゆるめ、助かった。

わたしは怖くて、家を飛び出したが、すでに深夜。電車は動いてなくて、お金もない……

暗くなつた駅の階段に座り、わんわん泣いた。

わたしたちは同棲してまだ3ヶ月しか経っていなかった……

親の反対を押し切つて、勝手に出てきた手前、連絡も出来ず……

コワイ…

また殴られるかもしれない…

どうしよう…

どうしよう…

でも引つ越して来たばかりで、友達はいないし、行くところがな
い…

寒い…寒いよ…

ガタガタと冬の寒気にさらされ、震えが止まらなくなった。

そんな時、母がいつも言っていた言葉が脳裏に浮かぶ。

「勝手に出て行く以上、あの人と何があっても帰って来てはいけな
い。覚悟して出て行きなさい」

その言葉が重くのしかかる。

わたしは…なんて自分勝手なんだろう…

母の言葉は冷たく聞こえるが、家を出るといふことは、そついつ心
構えでいなさいといふこと。

親に心配掛けたくない…

連絡できない…

迷いに迷った末。

仕方ない…
帰ろう…

また殴られたら、実家に電話しよう…

そう思い出した時、

「おい、帰るぞ」

正気に戻ったのか、彼がわたしを迎えに来た。

わたしは何も言わず泣きながら自転車に乗った…

第1話 暴力（後書き）

実話を元にしていきます。女性に対する誹謗中傷はおやめください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9579h/>

殴られても離れられなかった

2010年10月11日16時29分発行